



村の達人

教育長 津野庄一郎

関川村の豊かさは、自然や文化財だけではありません。村の人たち、或いは村にかかわりのある人たちの不断の努力が、豊かさを生み出しています。

先日の関川村発足 70 周年記念公演「みんなの捨てる家」。脚本・演出を手掛けたのは、劇団の主宰者でもある佐藤慎哉さん（朴坂出身）です。今を生きる人たちが何を大切にすべきかを笑いと涙で伝えました。

役場から見える渡邊邸の木羽葺き屋根、その職人は大工棟梁の三須真さん（下関）です。新潟県選定保存技術の保有者として、平成の大修理等で汗を流しました。この他、全国でも有名な「猫ちぐら」の職人の伊藤マリさん（上関）、生け花や茶道の先生である渡辺道子さん（下関）、米沢街道地域づくり検討会の米野紀男さん（上関）、歴史とみちの館の館長で郷土史家の安久昭男さん（上野）、関川村山の会の前村長、平田大六さん（小見）をはじめ多士済々です。一方、新たな産業や地域おこし、スポーツ、子ども見守りや救命などで活躍している方々も各集落においでですので、これを整えれば新しい「関川村の達人録」ができます。

25 年前の「生涯学習アドバイザーリスト」には、学術・芸術・スポーツ・家庭生活や地域活動などの分野で 136 名が登録。すでに鬼籍に入られた方も少なくありませんが、村民の学びをしっかりと支えてきました。感謝しかありません。

豊かさは「ある」だけでは、いずれ時代とともに衰退します。村民が関心を持ち、磨きをかけること、学び続けること、そして、受け継ぐことが求められているように思います。

さて、「私は何を学ぼうか」。

<写真：関川村発足記念公演 劇団アナログスイッチ HP より>